

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R5-7-19</p> <p style="text-align: center;">No.17</p>
---	--	--	---

8月6日は広島に、8月9日は長崎に原爆が落とされた日。8月15日は終戦記念日と夏休み中には、決して忘れない日はやってきます。

和歌山県ふるさと教育副読本「わかやま発見」(発行：和歌山県教育委員会)に、戦時下の和歌山の様子について、書かれている部分がありました。一部紹介します。

…(略)…「ぜいたくは敵だ」、「ほしがりません勝つまでは」が、国民の合い言葉となりました。

健康な男性は、兵隊に出され、残された女性や老人、子どもまでが、食糧増産に空腹をかかえて働きました。運動場や道路にも、いもや麦が植えられました。

空襲が激しくなるにつれて、和歌山市では「建物疎開」がはじまりました。火事を防ぐためです。市民は住む家さえこわされるのを見ていなければなりませんでした。

…(略)…

戦争が激しくなるにつれ、国民学校(小学校)4年生以上の児童生徒も食糧増産、草刈りや堆肥づくり、荒れ地の開墾などに動員されました。

…(略)…

米空軍機B29は、1944年11月に西牟婁郡、翌年1月には東牟婁郡などの村々に、つづいて太地町や新宮市などに爆弾を投下しました。その後、8月15日の終戦の日までの間に和歌山県下に200回以上の空襲がありました。なかでも、1945年7月9日の真夜中から始まった焼夷弾投下の和歌山市空襲は最大のものでした。翌日の10日

まで燃え続け、市の中心部のほとんどが焼け野原となりました。焼けた家27,000戸以上、死者1,200人、負傷者4,400人を越えました

戦争中は、毎日のようにたくさんの方が亡くなっていきます。学校で楽しく勉強したり運動したりすることなどは夢のまた夢であったでしょう。人が命の危険を感じずに、楽しく生きることができる自由がなかったのです。戦争はもっとも人権が守られていない状態です。



1945年に戦争が終わってから、人権が踏みこまれる戦争を二度と起こさないことを日本は憲法のもとに誓いました。しかしながら、今でも世界のいろいろな場所で争いが起こっています。人権が守られず、勉強ができない子どもたちがいることをみなさんは知っています。

どうすれば戦争のない世界をつくることができるのか。世界中の多くの方がこの問題と向き合っています。しかし、これは非常に難しい問題で、もしかしたら、この世で一番難しい問題なのかもしれません。世界中の人々一人ひとりがあきらめずにその答えを見つける努力をすることが大切なのだと思います。